

地域活性化のための取組の状況（2022年度上期実績）

ほくほくフィナンシャルグループは、企業の持続的成長のために必要とされるESG（環境、社会、ガバナンス）や、国際連合が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）等の視点を踏まえて、CSR基本方針のもとそれらの課題に対応した活動に積極的に取り組み、当社グループ、地域経済および地域社会の持続的な発展を目指します。

・CO₂排出量削減に向けFIT非化石証書を購入（北陸銀行・北海道銀行）

2022年6月、北陸銀行は北酸株式会社が提供する「FIT非化石証書の取次サービス（入札手続代行）」を活用し、カーボンニュートラルFIT非化石証書を購入しました。同社の契約企業として第一号となりました。

また、北陸銀行および北海道銀行は、同社とビジネスマッチング契約を締結しました。同サービスを通じて脱炭素化を進める取引先の支援を積極的に取り組んでまいります。

・TCFD開示に伴う業務の効率化（北陸銀行・北海道銀行）

2022年7月、ほくほくフィナンシャルグループと富士通株式会社は、気候関連財務情報開示タスクフォースの提言に沿った情報開示を支援するアルゴリズムを開発しました。

本アルゴリズムは、取引先データと行政が発行しているハザードデータをひとつのマップ上に自動で配置し、水害発生時の取引先の物理的リスクを算出するもので、分析結果は2022年7月発行の当社の統合報告書において活用されています。

・富山大学へ遺贈寄付をサポート（北陸銀行）

2022年8月、国立大学法人富山大学と「遺言を活用した遺贈寄付に関する協定」を締結し、富山大学へ遺言による寄付を希望する方に対して個別相談業務を開始しました。

北陸銀行は、お客さまの多様な相続ニーズにお応えするとともに、教育・研究の推進などを目的として2005年に富山大学と締結した「包括的連携協力に関する覚書」に基づく活動を通じて、産学連携による地方創生に取り組んでまいります。

・「カーボンニュートラルの推進に向けた連携協定」の締結および「ほくほくソーラーパーク」の建設（北陸銀行）

2022年10月、北陸銀行と北陸電力株式会社は、「カーボンニュートラルの推進に向けた連携に関する協定」を締結しました。

本協定に基づく取り組みの第1号案件として、北陸電力グループの「太陽光発電 オフサイトPPA」を活用し、北陸銀行所有地に北陸電力グループが太陽光発電所「ほくほくソーラーパーク」を建設・運営し、発電する全ての電力を北陸銀行の店舗等に供給いたします。発電規模は一般家庭約1,100世帯の使用電力量に相当し、北陸地区の北陸銀行で使用する消費電力量の約25%に相当します。地方銀行の取り組みとしては、国内最大級のメガソーラー施設となります。

・「ほくほくイノベーション共創1号ファンド」設立（北陸銀行）

2022年10月、北陸銀行とほくほくキャピタル株式会社は、先端的な技術やサービスを有するスタートアップ企業を支援する「ほくほくイノベーション共創1号ファンド」を設立しました。

本ファンドの規模は総額10億円で、地域の将来を担う起業家の発掘や育成に加え、革新的な事業により成長が期待される株式公開を目指せる企業等を対象として、幅広いステージの企業に投資を行います。

・北海道産「山田錦」を使用した試験醸造酒の発表（北海道銀行）

北海道銀行は、道内の基幹産業である農業を支援するための専門部署「アグリビジネス推進室」を中心に、農業経営の課題解決の支援に取り組んでいます。

2022年7月、2016年より取り組みを支援してきました「道銀・酒米プロジェクト」について、山田錦を使った道内の酒造会社6社による試験醸造酒がそれぞれ一般販売されたことにより、発表会を開催しました。

・地域金融に関する新たな連携スキームの開始（北海道銀行）

2022年8月、北海道銀行寿都支店を岩内支店の店舗内店舗として移転するとともに、北海道信用金庫寿都支店内に共同窓口および北海道銀行ATMを設置、ならびに寿都郵便局内のゆうちょ銀行ATMを北海道銀行ATMと同じ手数料でご利用いただけるようにしました。

同様に、洞爺支店、中湧別支店についても、地域金融機関との連携スキームの開始を公表しております。

人口減少が続く地域においてはマーケットの縮小など何れの金融機関も同じ課題を抱えています。持続可能な地域金融機能維持に向けて、地域金融機関との連携も含め様々な可能性を検討してまいります。